

1. 課題区分・管理番号 地域活性化課題 29-y001
2. 研究テーマ名 「産官学連携による研究教育拠点づくりの検討」
3. 研究期間 平成29年8月1日 ～ 平成30年3月22日
4. 研究代表者 工学部／社会環境工学学科 教授 森田 哲夫
5. 課題提案者 株式会社 アイ・ディー・エー

6. 研究成果の概要

下欄には当該研究成果について、その具体的内容、意義、重要性等を、地域課題研究事業計画書に記載した「研究目的」と「研究計画・方法」に照らし、A4で2～3枚程度で、できるだけ分かりやすく記載願います。文章の他に、研究成果を端的に表す図表を貼り付けても構いません。本学HPにて公表しますので、公表できる内容としてください。

本学は、「研究を基礎に教育を実践面も含めて教授する研究・教育型大学」を目指している。また、地方公立大学である本学の地域貢献の特色として、「地域の可能性を開発し、地域の価値をつなげる」ことをあげている。本学の研究・教育施設は、前橋キャンパスが中心である。学生と教員の研究セミナー、クラブ活動等に利用してきた白馬セミナーハウスは、平成29年3月をもって惜しくも廃止された。

研究・教育活動を推進するためには、外部の研究機関・企業、他大学との交流・連携拠点の確保が重要である。本研究プロジェクトは、本学と県内大学で共同利用する研究・教育拠点づくりの計画を検討することを目的とする。

研究対象をM町の保養施設とし、平成29年8月に2泊3日で研究セミナーを試行実施した。参加者は、学生26名、教員等7名であり、研究発表会、研究拠点づくりワークショップ、交流活動を行った。その結果、活動目的別の施設整備に関する課題を把握した。

◎研究発表関連

- 1) セミナー室の整備、2) 机、椅子、演台の整備、3) 発表設備の整備

◎ワークショップ関連

- 1) ワークショップ会場の整備、2) テーブル、椅子、ホワイトボードの整備、3) 文房具等の用意

◎交流活動関連

- 1) スポーツ施設：現在の施設で十分と考えられるが、スポーツ用具の更新が必要
- 2) 地域との交流：周辺施設と研究・教育拠点を合わせて利用できる仕組みづくり以上の結果に基づき、研究・教育拠点づくりのための基本理念、求められる機能、施設再整備計画（案）、研究・教育拠点の運営計画（案）を検討した。